

研 修 報 告 書

報告書作成日：令和 6 年 11 月 20 日

所 属 ・ 部 署	氏 名	研 修 実 施 期 間
ナギノテ	小林 博之	2024 年 11 月 8 日
研修実施機関名	学 会 名	研修実施場所
日本作業療法士協会	アジア太平洋作業療法学会	北海道札幌市（札幌コンベンションセンター）

研修内容	本発表では、日本の福祉分野における職業リハビリテーション支援の現状と成果、およびその中で作業療法士（Occupational Therapist：OT）が果たす役割について報告を行った。 研究は、就労移行支援事業所を利用した休職中の 28 名の利用者を対象とし、対象者の診断名、支援プログラムの内容、支援後の就労状況を分析した。 結論として、福祉領域における職業リハビリテーション支援では、作業療法士が中心的な役割を担うことで、利用者の自己理解・認知行動変容を促進し、職場復帰率の向上に寄与することが期待される。
感 想 (学び・気づき)	本学会発表を通じ、国内外の作業療法士から日本の福祉分野における職業リハビリ支援への高い関心を得ることができた。 特に、アジア太平洋地域では精神・発達障害の就労支援体制が国ごとに異なり、日本の福祉制度における「医療・福祉・就労支援の連携モデル」は注目を集めた。 質疑応答では、海外の参加者から「農作業を用いた職業リハビリテーションの意義」や「作業療法士が福祉現場でどのように組織内連携を進めているか」といった具体的な質問が寄せられ、 自社の取組にも国際的な関心が寄せられたことは大きな成果であった。 今後は、本研究を基礎として、より多様な障害特性に応じた支援プログラムの標準化や、作業療法士と福祉事業所の連携モデルの体系化を進めていきたい。 また、学術的エビデンスを積み重ねることで、福祉領域における作業療法士の専門性と社会的価値をさらに高めていくことを目指す。
次回の日時・課題 その他	

特 記 事 項 ・ 連 絡 事 項

参加者：小林博之

代表取締役	管理者／ サビ管	本人印
		